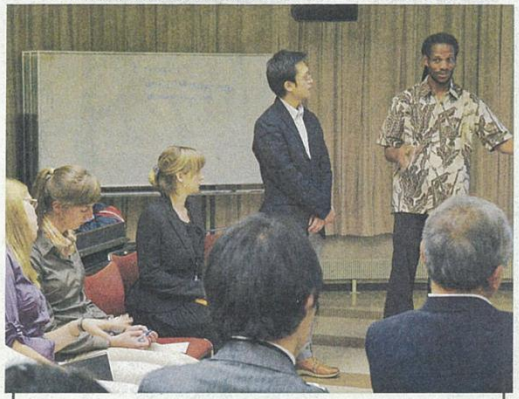
Hokkaido Shimbun 2012-11-08

町職員を対象に調査の最終報告を行う外国人学生



農協・漁協のつながり生かせ

様似で調査の外国人学生

地域の課題 町に最終報告

【様似】北大の事業で「持続可能な社会」について考えるため町内を調査していた外国人学生3人が6日夜、町職員を対象に町役場で最終報告を行った。

学生は、国内外の大学院博士課程に所属する南米のガイアナ、ロシア、米国の3人。10月25日から滞在し、1次産業や商業の現場などを訪ねてマチの課題や将来展望について直接話を聞き、今月4日には町民ら17人と共に対話集会を開くなどした。

この日は木下好和副町長をはじめ約30人が参加した。学生3人は温暖化による漁業の変化や、雇用の場がないことによる人口流出などを課題として指摘。解決のヒントとして「農協や漁協など町内の同業者のネットワークが発達している。これをより活用するべきだ」としたほか、「役場が町民との対話集会を活発に開くことや、日高管内、道内全体など広い範囲で協力し合うことが必要」と強調した。

3人は今後、フェイスブックなどの交流サイトを使い、縁ができた様似を積極的にPRするという。

（金子俊介）

Hokkaido Shimbun 2012-10-30

外国人大学院生３人が調査

国際視点で様似に提案

来月４日 マチの将来像語る

【様似】国内外の大学院博士課程の外国人学生が持続可能な社会について考える北大の事業で、男女3人が町内を訪れ、産業などに関する調査を行っている。14日間滞在し、11月4日には町民との対話集会を開いてマチの将来像について意見交換する。

（金子俊介）

今回の事業は、国内外の学生約30人が6月下旬に町内で調査した「北大国際サマースクール」の内容をより深めるのが目的。自然の豊かな様似町内で、環境を生かして持続的な社会をどう実現するか、国も専門分野も違う学生が一緒に考えて提案する。

3人は、北大に留学している南米のガイアナのデボン・ダブリンさん(34)、ロシアのアレクサンドラ・バンチェバさん(23)、米国のエイミー・フレイタッグさん(26)。3人はいずれもサマースクールで町内を訪問し、今回、バンチェバさんとフレイタッグさんは母国の大学院から直接参加した。

今月25日に町内入りし、各産業の現場などを回り、地域の課題などについて調べる。これまで軽種馬などの農家を回ったほか、町から災害対策について説明を受けた。28日には町内で開かれた「さまに地場産フェア」の会場で、来場者にアンケートを行った。今後、商店街や漁業者、観光施設なども訪ねる。

4日午後2時からは、町民を対象に対話集会を町中央公民館で開く。通訳を交え、調査内容を報告し、産業をどう活性化させるかなどを話し合う予定。3人は「多くの人が協力してくれてうれしい。様似のために良い提案をしたい」と話している。6日には町職員を対象に最終報告会を開く。

さまに地場産フェアの会場で来場者にアンケートを行う外国人学生3人